1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100289		
法人名	医療法人社団郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野		
所在地	熊本県熊本市北区楠野町1069-1		
自己評価作成日	令和7年 3月 21日	評価結果市町村報告日	令和7年 5月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かかりつけ医への受診と医療連携・隣に協力医療機関があり、入居者は職員付き添いで受診が出来る。常勤の看護師や他の職員が入居者の変化や異常の発見に努め、協力医療機関と連携をとる体制を取っている。グループホーム内で点滴やインスリン注射・在宅酸素への対応が出来る。又、ご家族の思いを尊重し主治医と連携しながら看取り介護についても対応している。○楽しみ事・気晴らしの支援・誕生会等の行事を季節ごとに開催している。○季節の行事や入居者の希望や状態に応じた調理法で提供できる。法人内の管理栄養士が献立を立てており、旬な食材やバランスのとれた食事をとる事が出来る。又、入居者の希望を聞きテイクアウト等も行っている。○感染防止対策のもとで面会や外出、日常の様子を文書や広報紙を活用しご家族や親しい人との繋がりが途切れない様に支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和7年 4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍以降の面会規制も解除され、家族や親戚・知人、ボランティアの方等の来訪も再開されました。事業所は2階での生活であり、全体的に介護度が高くなってきていることから、その日の希望による気軽な外出が難しい状況であることは、自己評価や面談でも課題とされていました。以前は外食にも出向いていたことより、事業所内でランチを準備し、「食べたい」の希望が出た際にはテイクアウトで楽しむ等、事業所内で生活を楽しむ工夫がされています。殆どの入居者のかかりつけ医は隣接する協力医療機関であり、看取りまで希望されるご家族への安心も大きなものと感じます。訪問時は入居者と職員の語らう様子みられ、明るい声・笑顔が毎日の生活の様子を語っているようでした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心」「楽しい」「きれい」の理念を入居者様や御家族・来訪者の方等、フロアの見やすい所へ掲げている。広報紙へも記載して御家族も共有できるものとしている。	理念は玄関にも掲示し、来訪者にも見えやすい状況である。年7回程発行する広報紙にも毎回理念を記載しており、地域・家族への啓発も続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様や御家族の要望があれば自宅への外出の機会を設け、家族や親戚、地域の方との交流を図っている。又、面会も対面での面会も実施しており、各入居者様の状況に応じて時間の延長等も行っている。お話しボランティアの受け入れも開始し徐々に地域の方との交流も再開している。	法人運営の病院に隣接しており、地域に馴染みがある事業所である。お話しボランティアや地域住民の来訪も継続したものとなっている。	コロナ他感染症予防のため中止していた運営推進会議も再開され、ボランティア等の受け入れも始まりました。入居者と地域のつながりを感じることでできる取組みの再開に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会役員の方へ広報紙を2か月毎に送付しているが、新型コロナウイルス感染症予防の為接触を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響により地域運営推進会議は中止していたが、令和7年1月より対面での開催を再開、又、今年度より奇数月の開催を予定している。	今年1月より対面での運営推進会議を再開した。会議では年7回程発行する広報紙を用い、入居者の日々の生活の様子を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの調査・アンケートには必ず回答して連携を図っている。事故があった際は速やかに市の担当者へ電話や報告書にて報告している。又、相談事がある時は市の担当者へ電話にて相談や確認を行った。地域包括支援センターへも空床案内を行い入居に繋げる等の協力関係を築いている。	行政には日頃の報告・相談や調査アンケートへの回答等を行っている。地域包括支援センターとは入居者状況等の情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会設置もあり、スピーチロックも含め拘束をしないケアに努め、又Web研修により具体的な行為について正しい理解をし、常に意識しながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。ホームは安心安全の為セキュリティシステムを導入しているが、入居時に御家族へ説明し同意を得ている	身体拘束ゼロ対策委員会にて虐待の芽チェックリストを年数回行っており、昨年度は集計結果を比較し変化の分析に取り組んだ。身体拘束適正化のための指針の見直しも行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に勉強会を開催し虐待防止に努めている。又、身体的な虐待だけでなく言葉や態度による虐待についても職員全員が理解し虐待防止に努めている。		

サンライズ楠野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を事業所内で実施し、日頃より入居者の権利(意思決定・尊厳)が侵害されていないか、意識しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・契約書に従い説明を行っており、不安や疑問点がないか確認し理解・納得した上で締結を行っている。又、料金改定の際には、書面で通知し、再度同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者様の状況を伝え、意見や要望を聴いている。遠方の御家族へは電話や写真・年7回発行の広報紙を送り、状況を報告している。頂いた意見・要望・思いは職員間で共有し運営面で活かす様にしている。	家族・親戚が近くにおられる入居者も多く、面会等で入居者の状況報告を行うとともに意見・要望を確認している。家族より外出・外食の要望もみられる際は協力し支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は日頃の会話や職員会議にて意見交換や提案を聴く機会を設けている。必要に応じて管理者より代表者へ相談を行い対応している。管理者は定期的開催されている代表者・各事業所の管理者が集まる会議へも参加し運営面への意見・提案を反映出来る様にしている。	職員は日頃より管理者へ意見や提案を表すことができる。2ヶ月毎の職員会議では職員間の意見交換だけでなく働き方等も議題にのぼることがある。定期的に管理者は法人代表との会議があり、必要に応じ報告を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や家庭の事情・病気療養等の勤務調整や療養後の職場復帰には無理のない様な勤務体制にしている。今後もより良い勤務体制や職場環境づくりに努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・力量等を見て法人内の委員会・介護部会・主任研修へ参加している。資格取得にむけて自己学習をしていく事も進めている。又、ホーム内での勉強会も実施しながら働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者との交流は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に病院・施設へ訪問したり見学に来て頂き情報収集に努めている。不安なく安心して入居して頂ける様に入院先等から情報を収集し職員間で共有し、安心して過ごして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ずホームの見学、面談を行い、ホームでの生活を見て頂いている。その中で御家族の思い・要望等を伺い、信頼関係を築く様にしている。又、入居後もコミュニケーションを多く持ち、その方らしい生き方が出来るよう、御家族と一緒に支援出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族・入居者様の意見・思いを聴き、その時必要とされている支援は何かを見極め、緊急性・必要性を考慮し主治医・ケアマネ等と相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の出来る事・出来ない事、好まれる事は何か等の情報を共有し家事活動やレクリエーション活動を共同で行い、共に支えあう関係を築いている。職員も入居者様から励ましや教えられたり、感動、感謝の気持ちを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と御家族のかけがえのない関係性を理解し御家族との絆を大切に出来る様に心がけている。面会時には必ず状況報告や要望はないか、御家族との思いにズレはないか確認する様にしている。御家族の思いは職員間で共有し共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前住まれていた近所の方や知人・親戚の方の来訪時は、対面での面会を再開している。又、入居者様の体調や感染状況に応じて、窓越しでの面会等に切り替えて対応している。看取りの場合は、居室で直接本人と御家族が面会出来る様に配慮している。	入居者の家族・親戚・知人等の来訪もみられる。入居前から隣接する法人病院をかかりつけ医とする入居者も多数おられ、通院も馴染みの場所である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、家事活動やレクリエーション、体操等と一緒にいる事で入居者様が互いに親近感を持ち、より良い関係が構築出来るよう配慮している。		

サンライズ楠野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁を大切にし、契約終了後の施設や病院へ面会に行き、顔を合わせている。又、御家族からの相談にも応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や行動の中で、希望や意向を把握する以外にも、御家族や知人からの情報や面会、外出時での様子を伺い、思いや希望を把握する様にしている。又、記録へ残し職員間での共有に繋げている。	職員の寄り添いや日常会話等で思いや意向を把握しており、可能であることは叶えることを基本としている。食事(食べたい物)について意向がある際には、テイクアウトメニューより選んで頂き、家族へ了解を得て皆で楽しむ機会もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族・ケアマネ等関係機関から本人様に関する情報を集め、これ迄の生活歴等の把握に努めている。記録に残し職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で思い出話をされたりするので、一つの言葉や言動を大切にしている。又、定期的にあセスメントを取り現状の把握と変化に気付ける様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で、入居者様・御家族の生活に対する意向や要望の把握に努め、職員会議時のケアカンファレンス時に意見を出し合い介護計画作成に繋げている。入居様の状態に変化が認められる時は、その都度ケアプランを変更する様にしている。	介護計画の実施評価は毎日、居宅担当者にて毎月の評価を行っている。職員会議時にのケアカンファレンスでは、入居者それぞれの困り事や薬の検討、オムツの使用法・量等に職員間で意見を出し合い、家族・職員の思いや医療面からの意見も加え、カンファレンス記録残して必要に応じ介護計画への反映を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・健康観察・病院受診・ケアの実践や気づき等を個人別に記録し情報の共有に努め、ケアプランの見直しや作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、御家族の状況に応じて通院や送迎、日用品の購入支援等を行っている。又、医療機関と連携を図りながら点滴・インスリン注射・在宅酸素等の支援が出来る。入居者様の状態で必要な福祉用具等を検討し、近隣の福祉用具店へ相談する等柔軟に対応している。		

サンライズ楠野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室から髪カットに来て頂いたり、近所の方のお話ボランティア等を受け入れて、暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関等の説明を行い同意を得た上で主治医の変更を行っている。受診は基本的に本人・御家族の了解を得て行っているが、緊急時等は事後報告になる事も御家族へ説明し納得頂いている。又、専門医への受診が必要時も職員・御家族と共に受診を行い職員のみで受診した場合は検査結果等を電話にて報告を行っている。	現在は協力医をかかりつけ医とする入居者が殆どであり、定期受診は職員付き添いにより通院している。本人・家族の希望・必要とされる病院や専門医等への通院は、家族の協力も頂き、職員も対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調不良や異常に気付いたら、看護師へ相談し、必要に応じて主治医へ内線・FAXにて状態を報告し指示を仰いでいる。又、24時間主治医・看護師と連絡が取れる為適切な対応や必要に応じ受診が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換を行い、医師や病院関係者を定期的に電話連絡を行い本人様の状態把握に努めている。退院後のケアの方針について、御家族・担当医・看護師・他職員と情報を共有し体制づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変・重度化した場合の医療連携体制について説明し、同意書に署名・捺印を頂いている。主治医・御家族を相談しながら方針を決め支援を行い、必要に応じて専門医や他の施設を紹介している。又、終末を迎える時期となり、御家族がホームでの見取りを希望された時は、主治医・看護師・事業所職員・御家族と何度も相談を重ね取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた方針と事業所での対応について説明、同意を得ている。看取りまで希望される際は、主治医他関係者と家族・事業所で話し合いを都度行いながら支援に取り組んでいる。看護師資格を持つ職員も勤務しており、法人病院に隣接していることより、連携体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や緊急連絡網、隣接の病院との協力体制が出来ている。母体病院が隣にあり24時間、医師・看護師が対応可能である。急変時のマニュアルやアクションカードも整備しており、ホーム内での勉強会も実施して緊急時・急変時に対応出来る様になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防避難訓練(昼・夜間想定・地震・風水害想定)を入居者も参加して実施している。隣接病院との合同訓練も実施し連携を図っている。又、水や非常食などの備蓄物の確認等も併せて行っている。	消防避難訓練では職員を2チームに分け、実施チーム・評価チームとし実施している。隣接する病院との合同訓練も行う。地震・台風時には規程により出勤者等も定めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳や自尊心を傷つけない様に言葉遣い・声掛け時の声のトーン、マスク着用での目の表情等を勉強会で行い、常に意識の向上に努めている。	入居者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない声掛け・表情・声の大きさ等に配慮している。トイレ利用時には扉の開けっ放しがないように職員間で重ねて共有している。化粧水等以前から使い慣れた物を続けたり、その日の気分により職員の対応を工夫する等、入居者それぞれに合わせた支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が分かり易い言葉かけや対応を心がけている。言葉を発する事が困難な方へは日々の言動や表情から意思を取り組めるよう細目にコミュニケーションを図ったり、問いかけの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、入居者様のその日の体調・気持ちを優先している。ここでも安心して生活してもらえる様に工夫しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や保湿クリーム等本人様が以前より使用されていた物を準備したり、衣類に関しても御家族の協力のもと好みの物を持参してもらったりしている。又、定期的に美容室より訪問して頂いて一人ひとりに合う髪形、好みの髪形へ整えてもらう等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様それぞれにあった食事形態や食感で提供している。誕生会にはケーキ・饅頭等、又、定期的に希望される寿司やハンバーガー等テイクアウトして提供している。お手伝いは困難でも共に台所で過ごされ職員の準備の様子を眺める等されている。	法人事業所の厨房で作られた食事を提供しており、入居者それぞれの摂食状況に応じている。行事食には手書きメニューが添えられたり、リクエストにも応じている。毎月栄養科会議が行われており、リクエストや食事の味付けや硬さ等の感想も伝えている。入居者の声でテイクアウトメニューを提供する機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養管理されている。毎回食事と水分摂取量を観察記録している。一人ひとりの状態や摂取量を把握し、状況に応じて高カロリーゼリーを付ける等している。又、咀嚼や嚥下の状態によっては食事形態の変更等行い支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来る入居者様へは声掛けを、介助が必要な方へは職員の介助のもと口腔ケアを実施。義歯を使用されている方は、夜間は外して洗浄液につけている。治療が必要な場合は歯科往診が受けられる体制を整えている。		

サンライズ楠野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて全入居者様の排泄を記録し、排泄状況の把握に努めている。出来る限りトイレでの排泄を促しており、オムツ使用の方でも状況を見てトイレへ介助を促している。入居者様に合ったオムツ・パット・リハビリパツを使用し支援を行っている。	昼間はトイレでの排泄に向けた支援を行っており、オムツ利用の方もトイレでの排泄を促している。夜間はポータブルトイレの利用もあるが、洗浄剤等利用し、臭いにも配慮している。オムツ・パット等利用の際もカンファレンス会議で職員間で情報を共有し、意見を出し合って検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や白湯を提供したり、運動(体操・歩行・起立訓練等)、腹部マッサージ等を行い便秘予防に努めている。又、毎日の水分摂取量の把握に努め、必要に応じて主治医の指示の下、個々に合った下剤を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴を実施しているが、入居者様の希望や身体状況・汚染等その時の状況に合わせて実施している。又、入居者様の希望のある方については個々のシャンプー等を使用している。	週2回の入浴を基本としている。入居者の身体状況や汚染時には都度対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠出来るように、一人ひとりの入居者様の体調に応じて、体操・活動・訓練等を行い活動性を高め生活リズムを整える様に努めている。又、入居者様の身体状況により、午前・午後と臥床時間を設けている。クッション等を使用して安楽な体位で安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服紹介ファイルで、薬の効用や副作用を確認出来る様にしている。服薬に関しては3重チェックを実施し誤薬防止に努めている。又、主治医へも服用後の体調の変化等を報告し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事・出来ない事を把握し洗濯物量等、身体状況に応じた活動役割の支援を行っている。嗜好品については食べたい物等を聴き出来る限り希望に添える様にしている。定期的にテイクアウト行事を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で商業施設等への外出は控えているが、施設周辺等の散歩やドライブを行い気分転換や外の空気や季節を感じられる様にしている。又、自宅への外出の機会も設け御家族と過ごす時間も徐々に増えてきており、今後も支援を継続していきたい。	コロナ禍以降、外出は近隣の散歩程度であったが、昨年度はバラ見学ドライブ等にも出向いた。家族との外出や外食等も歓迎し、それぞれに合わせた外出支援を行っている。「出来る間は支援したい」の思いで外出支援を課題とし、検討しているところである。	入居者の介護度も全体的に高くなり、気軽な外出や計画による皆での外出が難しくなっているようです。日常的な外出として、食事を取りに行く際の同行等、取組みの継続に期待します。

サンライズ楠野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より、お小遣いとして預かり、職員管理で金庫内に保管している。外出時等、必要な時はすぐに使える様にしている。欲しいもの必要なもの等は御家族とも相談の上、購入の調整支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの要望が聞かれる際は、電話をかけた後、御家族からの電話への取次ぎを行いやりとりが出来る様にしている。又、携帯電話を持たれている方もおり、充電等支援している。入居者様宛の手紙が届いた時は、本人へ届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファコーナーや畳コーナーがあり、入居者様の気分や活動の目的により使用している。フロアは季節が感じられる様に壁飾りや吊り飾りを行い居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。又、清掃・消毒・換気を徹底し、清潔と感染対策を行い快適に過ごして頂ける様に努めている。	食卓の他、テレビのあるソファコーナーでくつろぐ姿もある。入居者同士や職員を交え、話が弾む場面もよく見られる。共用空間には年間を通して飾りつけが行われており季節を感じる。入居者の当日の状態や介助の必要性により席を検討する等の工夫も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー・リビング・畳コーナーがあり、一日の時間の中で好みの場所でテレビを見たり、入居者同士で会話を楽しまれたりしている。又、状況に応じてテーブルや椅子等の配置を替え、落ち着いて過ごして頂ける様に環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間・和室の2タイプがあり、入居時に思い出の品や使い慣れた物等の持ち込みを依頼しており、写真・本人様の手作りの手芸品・テレビ等を配置、居心地良く安心して過ごして頂ける様に工夫している。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。テレビや写真、以前の生活を思い出させる手作り人形等、入居者の好みや家族を感じる空間となっている。生活歴に応じ布団の利用もある。生活用品の配置は安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室の入り口に入居者様が分かり易い様に、写真や飾り・暖簾等を使用し、視覚に訴え安産に自立した生活が出来る様に工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名サンライズ楠野グループホーム

作成日 令和7年5月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあい	コロナ禍で遠のいてしまった地域の方達・ボランティアの方々との交流を徐々に増やしていく。	地域の自治会やボランティアの方々への声掛けを行い交流の機会を設ける。	1 2 か月
2	20	馴染みの人や場との関係継続の支援	ご家族や友人・知人との時間を持てる様にこちら側からも声掛けを行っていく。	感染対策は継続しながら面会・外出の機会を設けご家族や知人等との今しかない大切な時間を持てる様にする。	1 2 か月
3	35	災害対策	あらゆる災害を想定し入居者様の安全を守る	常に災害が起こりえる事を常に意識しておく。緊急時の動き方等日頃から確認しておく。	1 2 か月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。